

問 鹿角地域の「道の駅」の連携を

答 北東北3県のスタンプリナーへの参加や、鹿角市内の2つの道の駅で連携したスタンプリナーを実施した。今後効果的な連携を検討する

市内経済の活性化について

問 商店街が衰退して

いるところが増えていくが、既存の商店街事業者に対しどのような支援していくのか。

答

商店街全体の支援から、商店街の活性化の根幹となる、既存の個々の店舗の魅力創出に施策の主眼を置くこととし、秋田県よろず支援拠点やかづの商工会と連携し、店舗内を顧客目線で見やすく、買い物しやすい店舗となるよう、店内のレイアウト変更を行う「0円店舗改善」を進めている。10月に2店舗で実施したところ、売り上げが向上しており、今後は4店舗に対して実施する予定である。

道の駅を起点とした振興策について

問 道の駅を基点としたワインや日本酒

による産業振興がでないか。

答

昨年度、道の駅かづので「鹿角体験型観光」として、ワイナリーこのはなの見学に、リンゴのもぎ取り体験と鹿角牛ハンバーグのランチをセットにしたプランを造成し、販売している。こうした動きを今後充実させ、日本酒やワインを楽しむながらまち歩きができるルートを提案し、観光メニューの一つとして加えていきたいと考えている。

質問した項目

- 市内経済の活性化について
- 道の駅を起点とした振興策について

館花 一仁 議員
(清風会)



録画配信はこちらから

問

答 地域経済が縮小・弱体化していると感じるが、どのように取り組んでいくのか。企業誘致や企業の促進を図り販路拡大に向け市場開拓を行う

商店街、産業の活性化について

問

廃業の続く商店街をどう認識しているのか。またコマツセ、まちなかオフィス開設によるまちなか交流効果は出ているのか。

答

本市の空き店舗数は、花輪地区と十和田地区で、平成22年度25件、今年度は38件となつていくが、本市商店街の店舗数に対する空き店舗の割合は18・1%と、県北平均の23・6%と比較して少ない状況となつている。

また、コマツセとまちなかオフィス開設により、飲食店の売り上げ増や、新規出店など

スポーツイベントについて

問 十和田八幡平駅伝の参加チームが減少しているが、その状況と対策について伺う。

答

最多で37チームの参加があったが、ここ数年は25チーム程度で推移しており、減少傾向にある。引き続き、粘り強い誘致活動を行い、参加者の意見を取り入れながら、魅力ある大会となるよう検討していく。

また、コマツセとまちなかオフィス開設により、飲食店の売り上げ増や、新規出店など



録画配信はこちらから